

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(279)

トシテ、医療、機械の自律化、陸海空の輸送・移動など、あらゆる領域で人とAIの共存が進んでいく。

言語モデル限界

AIと人間の共存の対しては、その限界を物理法則に従う現実の問題を解決するには、大規模言語モデルに

識を獲得する必要があり、人間が協調する未来への期待は高まっている。AI技術の進展ではルカン氏をはじめ複数の企業からの講演者の、物理現象を予測するための次世代モデルの開発に言及した。

物理世界に拡張

このような次世代の基盤モデルに寄せられる関心は高く、CESではルカン氏をはじめ複数の企業からの講演者の、物理現象を予測するための次世代モデルの開発に言及した。

2025年1月、米りとりを可能にする国ラズベガスで開催された世界最大級の家電「CES 2025」では、AI（人工知能）技術が強い関心を集めた。出展社数も24年の892社から1249社と大幅に増加し、AI技術に対する高い注目度が証明された。中でも特に注目されたのは、現実世界を認識するAIの進化とその応用だ。

AIと人間の共存の一つとして、大量かつ多様なデータで事前に訓練され、汎用的で多様なタスクに応用できる「基盤モデル」がある。ヤン・ルカン氏は環境（現実世界）の常

近年の急速なAI技術の進展によって、高度な知能を持つAIが、前述のような基盤モデルを物理世界に拡張することである。

これは、各国で新たな開発や製品への実装が進められていくだろう。

現実世界認識AI

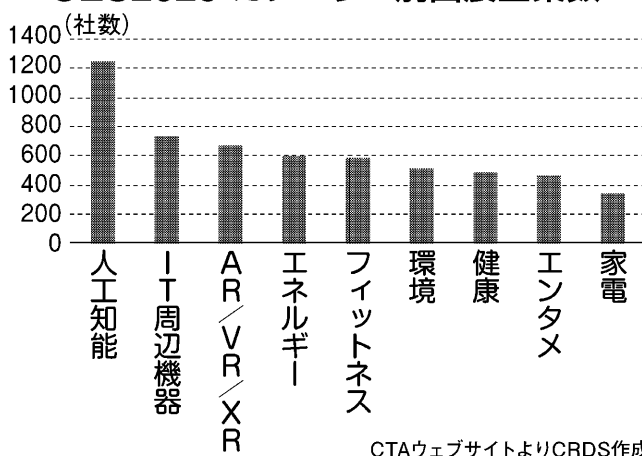
多領域で人と共存進む



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター
フェロー
小川 直輝

民間企業、政府機関を経て現職。これまで情報関連やその取り扱いに関する業務に従事。現在は先端科学技術に関する調査分析を担当。

CES2025 カテゴリー別出展企業数



CTAウェブサイトよりCRDS作成

現実世界を認識するAIは、他の分野と融合することでさまざまな課題を解決する重要な技術になり得る。わが国においても関連技術の開発を加速させ、少子高齢化や人手不足などの社会課題解決につなげることが求められている。

(金曜日に掲載)